ちに此文字が出來て彼等の間に用ゐられるやうになつたものであらうと思ひます、そうして此の世紀の何時頃かといふことについては只今判然と考を定めかねますが、此の三體碑文に見えて居るソグヂアナ文字といふのは、專門の大家が誤認した程ウイグル字に近くなつて居るのですから、此の碑の建立以來間もなく出來上つたものだらうと思ひます、卽ち九世紀の初半のことであらうと考へます、かゝる次第でありますから先程申しましたラクーペリー氏が五世紀頃から此文字を使つて居つたと言つて居るのはどうしても穩かな說とは考へられませぬ。

ウイグル文字の出來ました年代をほゞ此の頃と考へますから、假令此の民族の一部のものが何かの事情によつて其の西遷以前に佛敎を信じたものがあつたにしても、今日發見されて居る所の此の文字で書いたウイグル佛典なるものは、九世紀の初半以前のものは無い譯だと考へます、近來このウイグル文の佛典は大分發見されたのでありますが、困つたことには、此の邊の民族の常として、書いた物にデートを附けると云ふことは殆どないのでありまず、それ故に此等の發見されましたものについては、只今から何時の物であると定めることが非常に困難でありまず、其點から申しますと、新しい、古いと云ふことも非常に疑問になるのでありますが、併し大體の事だけは文字の書方であるとか、其の文法とか、或は經の形式、例へば此の斷片の中央に墨で圓形をかいたのは貝葉の綴じ目の跡を紙を用ゐる樣になつてからも保存したものでありますが、或は此の圓形は失はれて、紙面全體に書いて仕舞つたものであり、或はまた卷物になつたのもあり、更にまた本の形になつたのもある、さう云ふ風に經の形式が移り變つて來て居りますからその相異の點からなど、前後に付ての大體の考へは付きますけれども、正確に何時のものであると定めることは非常に困難であります。